

NACT×NCAR Artist Workshop for Business

国立新美術館・国立アートリサーチセンター共同企画 法人向けアーティスト・ワークショップ

アーティスト・ワークショップとは、アーティストの創造的表現と思考に触れながら、幅広い視点からアートについて考え、表現活動を体験するプログラムです。これまで現代美術やデザイン、ファッションなど多彩な分野から招かれた第一線のアーティストと100以上のワークショップを開催してきた国立新美術館(NACT)と、美術館の可能性を拡張し人々とアートの接点の多様化を目指す国立アートリサーチセンター(NCAR)は、2024年より共同で企業や団体に向けたアーティスト・ワークショップの提供を開始しました。国立美術館の実績とノウハウをもとに、企業の活動や研修目的に合わせた企画をアーティストと一緒に作り上げていきます。



● 実施例

株式会社NTTドコモ様

● アーティスト・ワークショップ

「Life Type」

● 講師

SPREAD

日時 | 2024年12月11日(水)14:00~18:00
会場 | 国立新美術館 別館3階 多目的ルーム
参加者 | 6名



今回のワークショップは、国立新美術館の別館を会場に開催しました。はじめに、SPREADとして活動する山田春奈氏・小林弘和氏によるアートとデザインの領域をまたいだプロジェクトや作品についての紹介とレクチャーを受けます。続いて、参加者はワークシートを用いながら自分の人生で起こった出来事や瞬間を振り返り、思い出した言葉や名前をピックアップ。アルファベットと数種類の記号を用い、それらの出来事や瞬間を表現した「Life Type」を制作しました。最後に制作した「Life Type」を参加者同士で鑑賞しながら、その人の性格や取り巻く環境、価値観を考え、そこに込められたストーリーを想像して、対話を深めました。

Workshop Photo by io

About Workshop 「Life Type」

小さな紙面の中にある人生のストーリー これまでの／これからの自分と知り合うワークショップ

「Life Type」は、自分の人生で起こった出来事や瞬間を振り返り、アルファベットと記号で表現したグラフィック作品です。配置された文字の構成に同じものは一つとしてなく、一枚一枚にどれかの人生に起こった特別なストーリーがこめられています。

Artist Profile SPREAD 山田春奈と小林弘和によるクリエイティブ・ユニット

長い時間軸で環境を捉えるランドスケープデザインの思考と鮮烈な印象を視覚に伝えるグラフィックデザインの手法を融合させ、あらゆる記憶を取り込み「SPREAD=広げる」クリエイティブを行う。2004年より、生活の記録をストライプ模様で表す「Life Stripe」を発表して注目を集め、ミラノ、バーゼル、マイアミ、シンガポールなど国内外で作品を発表。国立新美術館開館10周年記念ジュエルのデザインを手がける。



Corporate Voice

企業担当者に聞く

企業の担当者にとって、アーティスト・ワークショップを開催し、社員に体験してもらうことにはどのような意味があるのでしょうか。今回の企画を主催した株式会社NTTドコモの事務局ご担当者様にお話を伺いました。



開催に至った経緯を教えてください。

今回は幹部育成プログラムの一環としてワークショップの開催を行いました。参加してもらったのはNTTグループ会社の方々6名です。アートに着目したのは、論理的思考だけでは戦えない「直感」と「感性」も求められる時代において「美意識」の重要性の理解や、「美」に触れる機会を通じて、経営における自分軸に向き合ってもらうことが可能なのではないかと期待したためでした。レクチャーやディスカッションだけではなく、経験・体験から学ぶことも多いにあるのではと思います、今回はアーティストの方によるワークショップという体験型の研修を取り入れることにしました。今回の開催よりも前にフィールドワークとしてミュージアムを訪問するなど、アート作品に直接触れる時間を設けていました。それを踏まえて、アート鑑賞をするだけではなく、さらにワークショップという異なるアプローチをとることで、自分の想いや価値観を具現化したり、深く掘り下げたりする機会が生まれるプログラムにしたいと考えていました。

実際の反響はいかがでしたか？

いつものオフィスではなく美術館内という非日常空間で通常の業務と全く違う頭の使い方をしていただいたのは、みなさんにとって貴重な経験だったと思います。参加者の方には、パーソナリティを掘り下げ本来の自分自身を見つめるため、過去、現在、そして未来にも想いを馳せるというワークを行なってもらいました。人生のターニングポイントで感じたものに触れながらそれをカタチに表現する、というアプローチに対して、参加者それぞれがありのままの自分(軸)を作品として投影していたと感じました。また、他の参加者やアーティストの方との対話を通じて、自分軸のカタチ、というものを新しい視点から掴めていただけたのではないかと思います。このワークショップの特徴は、今回だけの一過性のワークとして終わることなく、作品として残すことで、目に触れるたびに思い起こせるということ。

日常生活の中でも、繰り返し今回のプロセスや、自分が表現したことを意識できるというのは非常に効果的ですね。今回のワークショップ後にいただいた感想には個性、多様性の相互理解の深さを学んだ、というものが目立ちました。参加者の中には、後日自ら美術館に足を運ばれた方もいらっしゃったようで、今回のワークショップに参加したことにより、想いを表現することや他者に伝えきることの難しさを改めて認識したり、新たな理解が生まれたりと、アートを通して学ぶというアプローチが少し身近になったのではないかと考えています。

この企画を実現するまでに心がけたことはありますか？

企画した私たち自身は、アートに関する見識もほとんどないのですが、それでも今回のワークショップは従来の業務研修や人材育成の研修とは一線を画す研修にしたい、と強く思っていました。企画段階から難航した場面もあったのですが、美術館の皆さまにご相談させていただき、アートの観点を絡めたワークショップの実現が叶いました。我々の意図に沿った内容になるように、さまざまなご提案をいただき、その甲斐あって参加者の方に色々な気づきを得ていただけたと思います。とても有意義な機会となりました。



Participants' Feedback

参加者の声

全体満足度	とても良い：100%
レクチャーについて	とても良い：100%
ワークショップ	とても良い：100%

- アートとデザインの違いや制作時のコンセプトと作品の解説など、分かりやすい説明を聞きながら、美の表現の入口を学べたように感じた。
- 抽象的な表現であっても効果的に利用することで、より具体的、直観的にその想いや背景を伝えることが出来る可能性を感じた。
- 日常では見えてない、考えていない領域の話を一線アーティストに実施していただいた。
- シンプルな内容であるが、作業においては、そこに何を表現していくかのプロセスを通じて考えていることを表現する難しさ、メンバーとの意見交換においては他者の表現を理解することの難しさを学ぶことができ、価値観の多様性を目の当たりにできた。
- 制作、鑑賞、解説、共有と色々な視点でデザイン、アートに触れることが出来た。
- 実際に創作活動をされているお二人からレクチャーを受けることが出来、創作への想いやそれがどのように具現化され、世に出ているのかをリアルに感じる事が出来た。